

令和6年度北海道社会教育セミナー「基礎講座①」

事業におけるリスクマネジメント

鈴木 宏紀 自然考房 Nature Designing

講師自己紹介

- 鈴木 宏紀(すずき ひろき)
- 愛知県出身(1975年生まれ)
- 北海道沙流郡日高町在住(2014年～)
- 自然考房 Nature Designing 代表(2018年～)
- 北海道知事認定アウトドアガイド(自然)



富良野

北海道

札幌

E5

夕張

帯広

日高町日高地区(山日高)

笏洞爺
立公園

E5

苦小牧

E60

Google

日高町日高地域について


- 日本一離れた飛び地合併の町

	面積	人口
日高町(全域)	992 km ²	11,043人
日高地域	563 km ²	約1,200人
札幌市	1,121 km ²	約195万人

- 日高地域の95%は森林
- 畜産、農業、林業、観光が産業
- 日本一の清流「沙流川」(さるがわ)
- 雄大な日高山脈、日勝峠

日高山脈最高峰 幌尻岳 (2,052m)
日本百名山最後の難関
今夏に日高山脈が国立公園化





国内屈指の清流 沙流川
国交省「水質が最も良好な河川」に選定

自然考房 Nature Designing 活動紹介

- 個人・少人数向けガイドツアー
- 学校・団体向け体験プログラム
- 法人・組織向け研修プログラム
- 講演・事業企画運営・アウトドアサービス



アドベンチャー教育プログラム



コミュニケーションワーク



集団教育キャンプ



自然体験活動



レクリエーションゲーム

講習のながれ

- リスクマネジメント基礎
- リスクアセスメント演習
- 段階ごとのリスクマネジメント
- 事故事例の分析

リスクマネジメント基礎

何の**リスク**も取れない人間は、
人生で何一つ成し遂げることにはできない。

リスクを負わないことがリスク。

「リスク」とは？

- リスク≡危険、危険性
- 身体的や心理的、社会的、経済的損失が発生するかもしれない
不確実な要素

「リスクマネジメント」とは

- 安全管理 = 安全な状態を維持する、安全第一
- リスクマネジメント = リスクを事前に把握し、適切に対策を講じて、
ダメージを最小限に抑えること
- 特に野外での体験活動にリスクは付き物、完全に排除することはできない
⇒ 学び・成長の要素

リスクアセスメント演習

まずはチェックイン

- ① 名前・所属
 - ② 最近あった出来事（嬉しい、悲しい、美味しい、なんでもOK）
 - ③ これまでに体験したピンチな出来事（話せる範囲で）
- ⇒ 全員回ったら合図があるまでぺちやくちやタイム（世間話）

グループワーク I

夏休みに近隣の小学生30人を集めて、1泊2日で集団キャンプに行くことになりました。キャンプ場は集合場所からバスで2時間ほどの距離で、川沿いのキャンプサイトで野外炊事やテント泊をする予定です。

- ① その際、想定されるリスク(危険性)を5つ挙げ、付箋1枚にひとつずつ書いてください。(まずは相談せず、ひとりで)
- ② ひとりずつどんなリスクを想定したか、付箋を見せながら発表してください。
- ③ 全員の付箋を分類し、項目名を別の付箋に書いてまとめてください。

リスクの分類(大)

環境要因	天候、地形、気温、水、動植物
物的要因	道具、食材、備品、服装
人的要因	知識、技術、体力、思考、判断 健康状態、心理状態、人間関係

リスクの分類(小)

- フィールド（増水、急流、障害物、溺水、低体温症、暗がり、転倒、落石、落枝）
- 天候（日差し、高温、熱中症、強風、雨、低温、低体温症、雷）
- 生き物（熊、ハチ、マダニ、ブヨ、アブ、蚊、マムシ、毒草、毒キノコ）
- 交通（居眠り、故障、動物、事故、ガス欠、車酔い、トイレ）
- 道具（刃物、火器、調理器具、たき火、衣類、靴、寝具、ハンマー、故障）
- 衛生（食中毒、アレルギー、感染症、動物食害、保存方法）
- 人間（知識・経験・装備不足、体調不良、疲れ、忘れ物、飲酒、騒音、喧嘩、犯罪）

リスクの分析、情報収集

- フィールドごとのリスク（川、山、海）
- 天候によるリスク（強風、大雨、雷、高温、低温）
- 熱中症、低体温症（初期症状、対処法）
- 危険な動植物（ヒグマ、スズメバチ、マダニ、ブヨ、マムシ、ウルシ、イラクサ）
- 道具、服装の理解
- 食中毒について（生ものの取り扱い、感染症）
- ヒューマンエラーの理解、参加者・スタッフ情報の把握

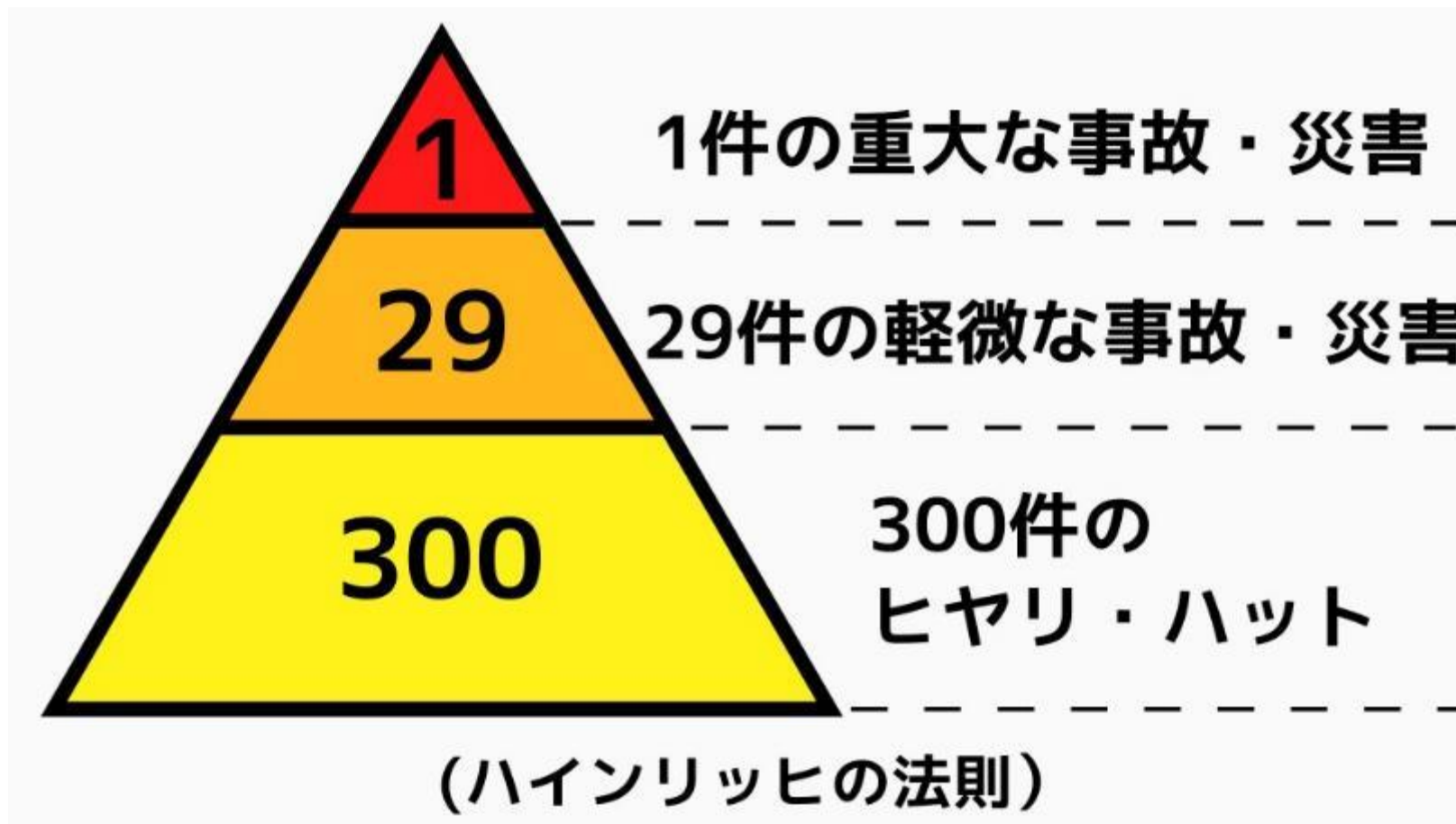


Photo by Yuri Shirane





ハインリッヒの法則

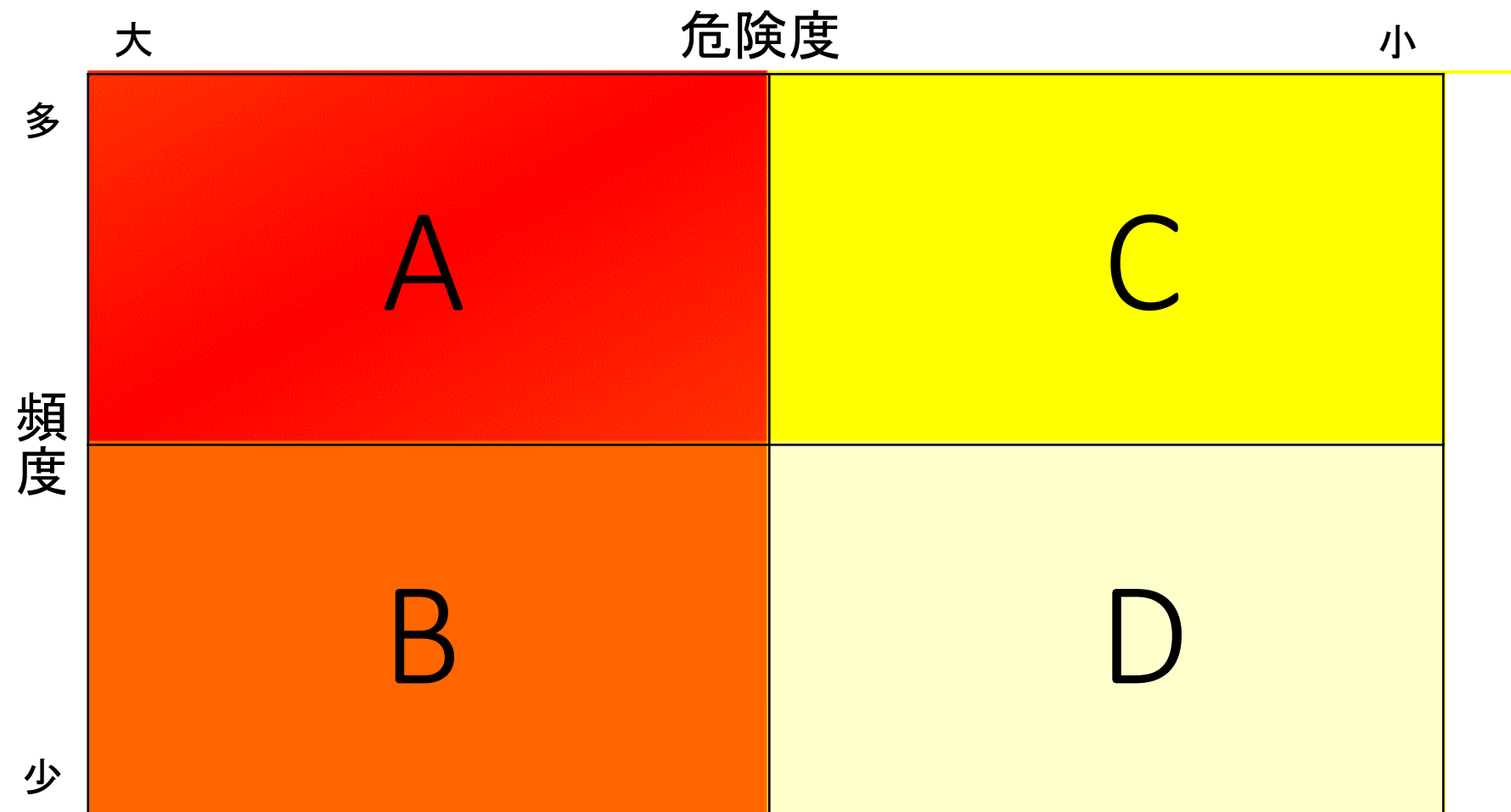


グループワークⅡ

- ① これまでに活動中に体験した「ヒヤリハット」(ヒヤッとした、ハッとしたこと)や、実際に起きた事故・ケガなどをひとり3つ挙げ、付箋に書いてください。
(相談せずひとりで、小さなことでもOK、書ける範囲で)
- ② ひとりずつどんな体験をしたか、付箋を見せながら発表してください。
- ③ 模造紙を4つに折り、折り目に線を引き、十字の上に「多」、下に「少」、左に「大」、右に「小」と書いてください。
- ④ 縦軸を「頻度」、横軸を「危険度」として、書いた付箋を配置してください。

	多	
大		小
	少	

リスクの評価

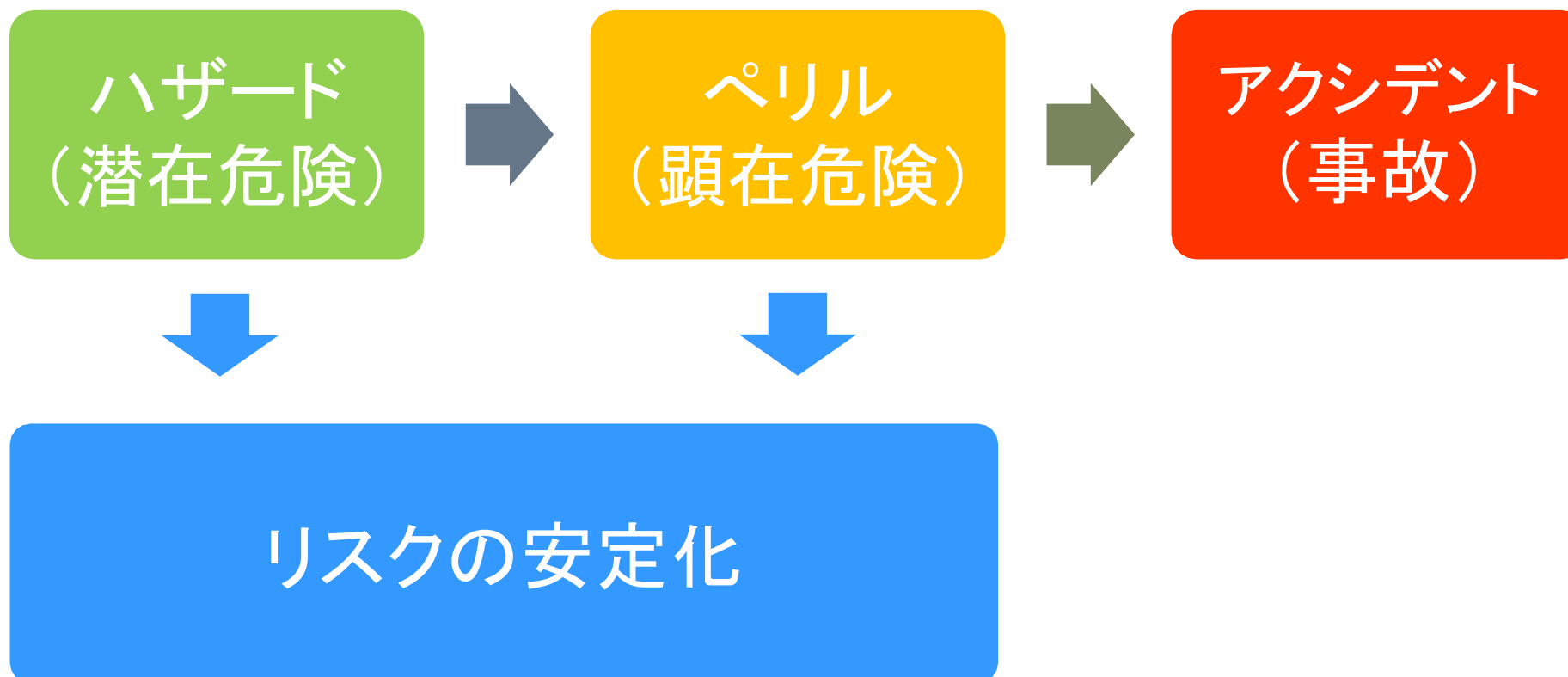


リスクの状態

- ハザード (潜在的な危険因子)
- ペリル (危険が顕在化している状態)
- インシデント (事故に至らなかった事象)
- アクシデント (実際に起こった事故)



リスクの段階



リスクのコントロール(対策)

(例)
排除・除去
中止・延期
会場変更
活動変更

回避

分散

(例)
共同実施
外部委託
保険加入

(例)
資機材増
スタッフ増
参加者減
難易度減

低減

保有

(例)
観察
看過
利用

グループワークⅢ

- ① 模造紙に貼られたヒヤリハット、または事故事例について、全員で相談しながら対策を行うべき優先順位を付け、番号を振ってください。
- ② 優先順位の高い順に対策を全員で考え、その内容を違う色の付箋に書いて、隣に貼ってください。

段階ごとのリスクマネジメント

体験活動のリスクマネジメント

1. 計画段階
2. 準備段階
3. 実施段階
4. 事故発生時
5. 実施後

1. 計画段階のリスクマネジメント

- ① 活動場所や施設を下見する
- ② 荒天時の対応を考えておく
- ③ 傷病者が発生した場合の対応を考えておく
- ④ 活動計画書を作成し、スタッフ間で共有する

2. 準備段階のリスクマネジメント

- ① 参加者の詳細情報を入手する
- ② 参加者に必要な情報を共有する(活動内容、持ち物、服装等)
- ③ 資機材の準備、チェック
- ④ 活動のプレ実施、役割分担の明確化
- ⑤ 保険の加入
- ⑥ 天候の予測、情報収集

3. 実施段階のリスクマネジメント

- ① 天候、フィールド状況の確認
- ② 参加者、スタッフの**健康状態把握**
- ③ 服装、持ち物の確認
- ④ 役割分担の確認
- ⑤ **セーフティーク**
- ⑥ 移動中の安全確保
- ⑦ 活動中の安全確保

4. 事故発生時のリスクマネジメント

- ① 事故状況の把握
- ② 自分自身の安全確保
- ③ 事故当事者以外の安全確保
- ④ 安全な場所への避難
- ⑤ 傷病者への応急手当
- ⑥ 救助依頼(施設、消防、警察等)
- ⑦ 医療機関への搬送
- ⑧ 関係者への連絡

5. 実施後のリスクマネジメント

- ① ふりかえり(事故・傷病・ヒヤリハット)
- ② 報告書の作成、関係者への共有
- ③ 資機材のメンテナンス

事故・傷病対応

- ① 保険対応
- ② 経過確認
- ③ アフターフォロー

野外での体験活動時の服装・個人装備

【参考】

CAMPシートNo.3 キャンプの服装（日本キャンプ協会）

https://camping.or.jp/archive_and_download/know_how/6467.html

CAMPシートNo.1 キャンプの持ちもの（日本キャンプ協会）

https://camping.or.jp/archive_and_download/know_how/6469.html

ファーストエイド(応急処置)

【参考】

CAMPシートNo.9 キャンプでのファーストエイド (日本キャンプ協会)

https://camping.or.jp/archive_and_download/know_how/6461.html

各地の消防署、日本赤十字社などで応急処置法の講習を実施

事故事例の分析

事例研究「道迷い」

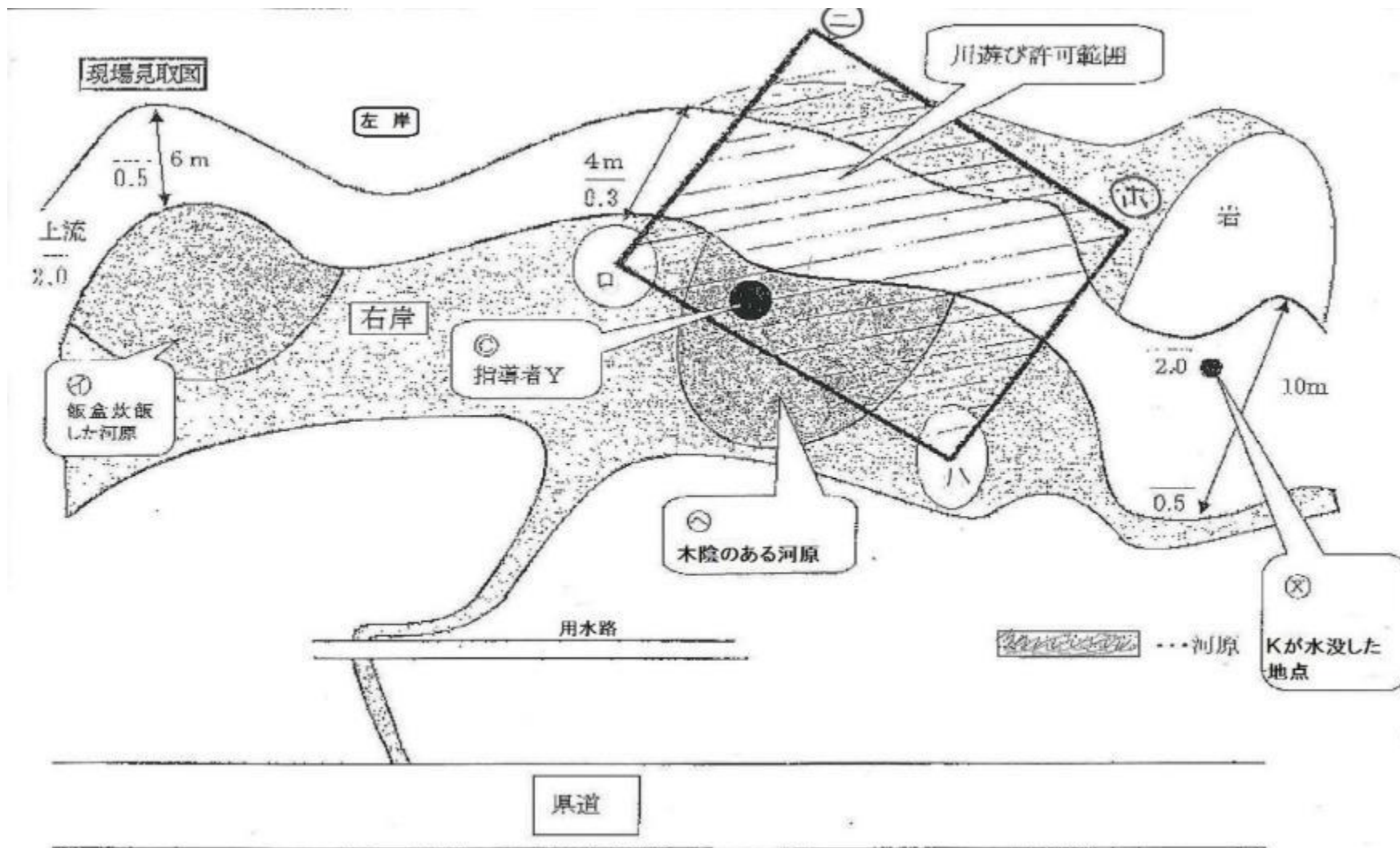
- 小学校の遠足登山で、遅れた児童20人と引率していた教諭1人が、下山中にコースから外れ、道に迷い、山中で一夜を明かし救助された。
- しばらくはウロウロしていたが、濃霧が立ちこめ日が暮れてきたので、無用に動くとは危険と判断して谷間の林の中で夜を明かした。
- 食べ残しのおにぎりや菓子で空腹をしのいだ。
- 下見は引率教諭7人の内1人だけが実施した。

事例研究「道迷い」 原因分析

- 下見が十分な条件で行われていない
- 安全管理計画が十分でない
- 下見の情報が共有されていない
- 非常事態に備えた準備が十分でない
- 日が暮れたことで、無用な行動をしない判断は良かった

事故事例「水難事故」

- 子ども会の野外炊飯に参加し昼食後の川遊びで、9才の男児が川遊びの範囲として指定された水域を超えた下流約15メートルも離れた深みにはまり溺死した。参加者は、小学校1～6年生の30名、OBの中学生6名、引率者ら11名。
- この事故では、引率者らの賠償責任が認められ、約527万円の賠償金支払いを命じられた。



—事故発生現場地図—

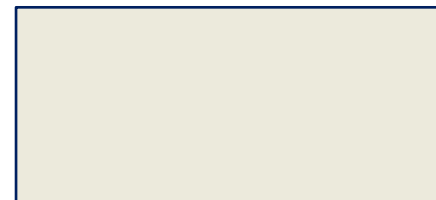
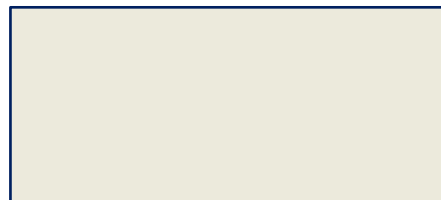
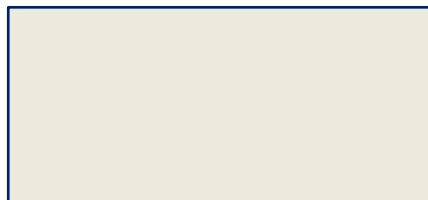
事故発生

原因

人的
(ハザード)

物的
(ハザード)

環境
(ハザード)



考えられる防止策

考えられる防止策

- 活動範囲の両端(川であれば上流側と下流側)、および全体を見渡せる場所に監視するスタッフを配置し、参加者が範囲外に出ないように注意する。
- 参加者、スタッフにライフジャケットと水遊び用の靴、ラッシュガードまたは化繊の衣類を着用させ、スタッフには救助用のスローロープを装備させる。
- 下見をスタッフ全員で入念に行い、深みや死角などの危険箇所から離れた場所に活動範囲を設定する。
- スタッフ全員で、ライフジャケットの着用方法、スローロープの使用方法、監視体制、緊急時の対処方法について確認する。
- 参加者に活動中のリスクやルールについて周知し、順守させる。
- 実際にライフジャケットを着用して浮いてみる。緊急時の対応方法を体験してもらう。

指導のポイント

- 野外活動中の死亡事故の発生原因は、指導者が子どもを見失わないこと。
活動中に見失うことにより生じる事故が最も多い。
- そのためには、①注意の与え方と、②監視体制が重要。
- 子どもの数に応じた指導者数だけでなく、指導者間において、役割分担を定めることが必要。



WEAR IT! 水辺ではライフジャケットを着よう!

プロジェクト
について

お知らせ

ライフジャケット
レンタルステーション

ライフジャケット
Q&A

パートナー

後援・協力団体

ライフジャケットを着よう!



ライフジャケット レンタルステーション

レンタルステーション
新たに追加しました。

水辺での活動には
ライフジャケットをお忘れなく!



●新しいコンテンツ



SAVE YOUR LIFE

平成30年2月からすべての小型船舶の乗船者にライフジャケットの着用が義務化されました。詳しくはこちらから>

●お知らせ

▶ もっと見る



【重要】2022年レンタルステーション開催のお知らせ

2022.06.30

プロジェクト



【重要】2020年ライフジャケットレンタルステーション開設の中止について

2020.07.09

プロジェクト



『ソーシャルディスタンス』の推進について

2020.04.21

プロジェクト



ライフジャケットは いのちにやさしいジャケット



楽しい水辺、海、川、池、湖。そんな水辺で、ときに人のいのちを奪う事故が起きています。水の事故を減らす1つの手段としてライフジャケットを着るといふ選択肢があります。ボートから海に転落した場合のグラフ（下のグラフ）の通り、ライフジャケットを着ると、着ていない場合に比べて生存率が約2倍も高くなります。ライフジャケットを着ることで沈むことなく、呼吸困難におちいるのを防ぐのはもちろん、水中につかる面積を少なくすることで体温の低下を遅らせてくれたり、発見を早めてくれます。頭や体を打ちつけて、自由に体を動かさないとときも、ライフジャケットを正しく着ていれば、体は浮きます。自分や家族、子ども、友人など、大切にしたいいのちにライフジャケットを。



ライフジャケットを着ていた場合、生存率が約2倍

海中転落者のライフジャケット着用率及び死亡率
海難の現状と対策（令和3年）より作成



参考：川の危険な場所を見分けよう

川は独特な水の流れや障害物があり、安全に川で遊ぶためにはその特徴を知ることが大切です。流れが速い場所や、深い場所、危ない場所では遊ばないようにしましょう。穏やかな流れの場所でも十分注意しましょう。



参考：川遊びにおすすめのスタイル



私たちはきっと大丈夫！？

「正常性バイアス」「同調性バイアス」に注意

- 正常性バイアスは、異常なことが起こった時に「大したことじゃない」と落ち着こうとする心の安定機能のようなもの。
- 日常生活では、不安や心配を減らす役割がある。
- 緊急事態では逃げ遅れなど、危険に巻き込まれる原因にもなる。
- 同調性バイアスは、集団の中にいるとついつい他人と同じ行動をとってしまう心理。
- 日常生活では協調性につながる。
- 災害時には周囲の人の様子をうかがっているうちに避難が遅れる原因にもなる。

事故事例分析の意義

- 事故事例の背景や原因を知る
 - 事故事例の再発防止策を考える
 - 事故を未然に防ぎ、自分や参加者、組織を守る
- ⇒ リスクマネジメントの意義

みんなで安全に、楽しく学び多い
体験活動を広めましょう！